



北雪時代加々見

辰の
新歴史

四編下

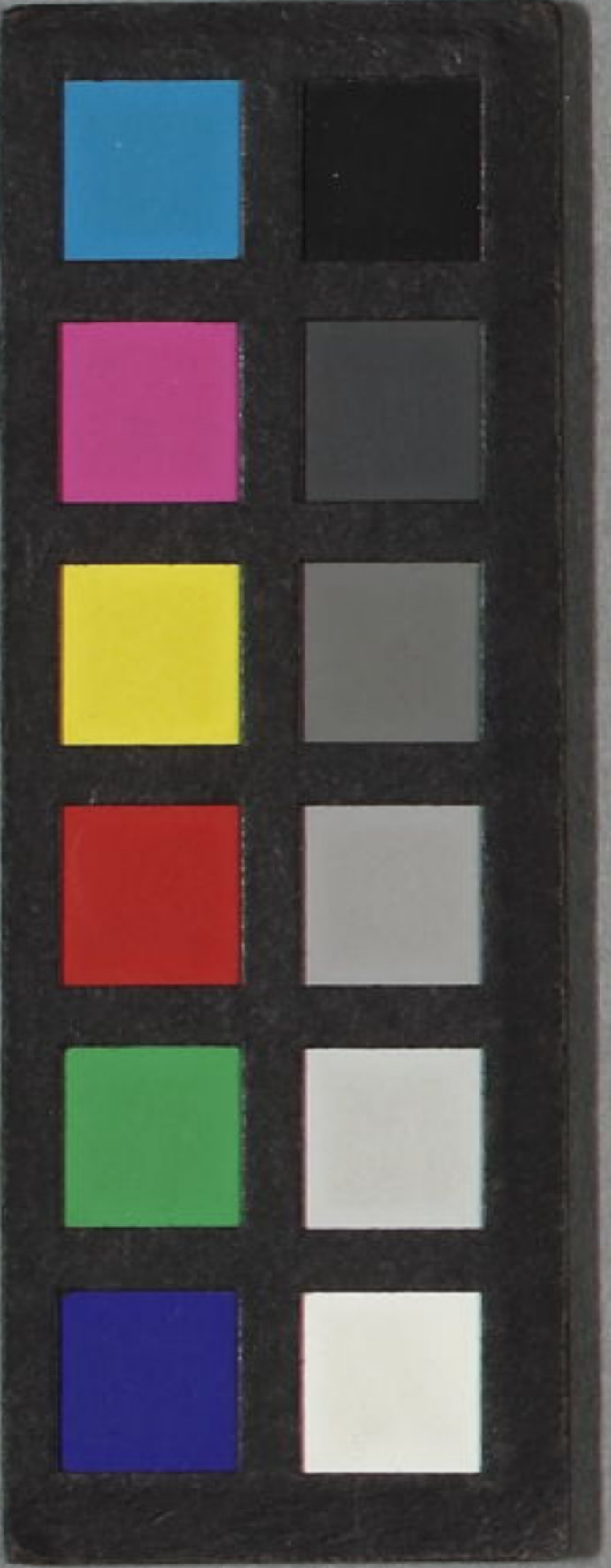


為永喜水作
一齋齋國貞畫

北題要五國全

名林堂
壽梓

四編上







丙辰
新刻

一

禊
 禊者流の根原の那衆人の
 寓言みよひ善悪勸懲法旨と
 未あれど近き屬の画双紙の或い何の
 妖術とう奇々怪々の條紙設て画組ふ工を
 を尽さねば婦幼稚童の御意小愜つせ余が
 由縁が夢の中より岩藤ふ授らるるかの妖蝶
 の一段より只管蝶紙あつらへて莊子みゆゑ名策子の
 上小棚々然とて筆紙飛一ぬ

安政三年丙辰陽春

丑二

為永春水記焉

時代鏡

Red seal impression at the bottom center of the page.





尾籠局



多賀の老翁
白老職
忠民
直

橋本
基介



春水作國貞画

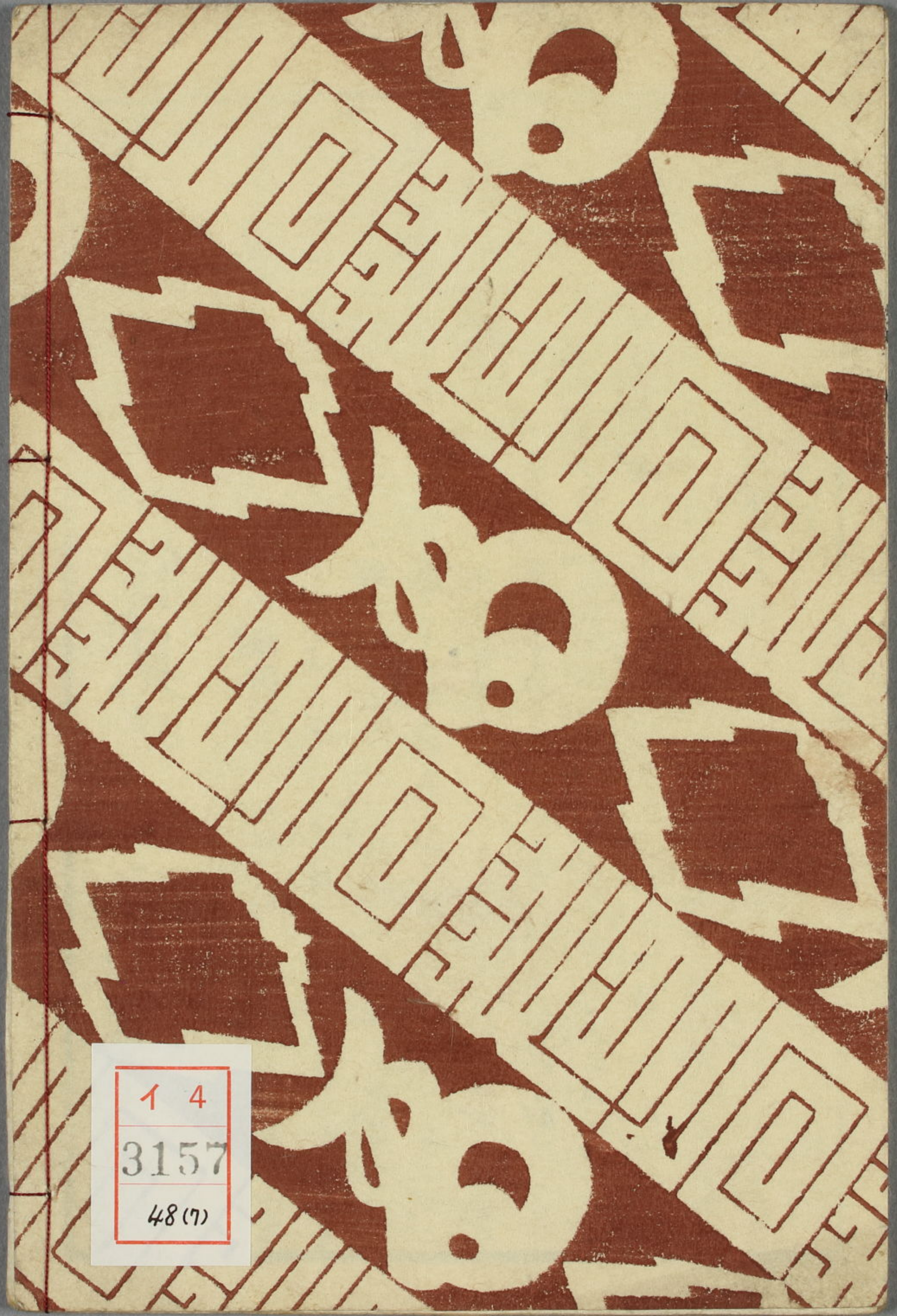
ついで
 春水作の
 國貞画の
 春水作の
 國貞画の
 春水作の
 國貞画の

○春水作の
 國貞画の
 春水作の
 國貞画の
 春水作の
 國貞画の

北雪 時代加賀見腹稿豫言 春水作 國貞画

十七編 因果坊戒念が計つて定み入るの一段續いて宝塔建立ゆりて朝日の弥陀を安置す
 すりう尾上之助が无失の災難爰ふこいよく春辰が草履をりて面を打のちむねを
 貫目とす 十八編の前編漏る緯を綴りおし姑く話説大和子轉と彼荒地の遺子
 英壽丸と喚るる変生女子の形容とわう十六夜と假寐しは竊ふ躬方を擔はんさ心願と
 稱し攝待旅籠とたるを此一段爰ふ種々の可笑あり 十九編はその授待泊り銭需め
 一老弱男女の器量と試を此段殊ふ巧まば豫胃中の機密を泄しがてて何
 へふ言の借 二十編ふのうと大和の段を編果く辱噂を閑る正香丹四郎が武名
 の傳記峰沢が花作と変名しその妻阿十字と奸悪の物語り那无上太等が
 うふ及びく又一入の見所あり這の復長譚あるをりて廿一編 廿二編小説の序と夏もあ
 りねん秋介く後ふ再び多賀の話説ふらうり雪若が智勇の傳ふと引続とて
 西覽ふ入るべしと謹む白き

板元 若林堂 謹



1 4
3157
48 (7)



北雪時代加々見
美談

辰の
新歴史

四編下







あつちのうらやまの
 山に雲がたもたもた
 してはるかに
 ながるる
 水は
 せせり
 流るる
 草花は
 いろいろ
 咲いて
 いる
 春の
 気配が
 する
 かな

あつちのうらやまの
 山に雲がたもたもた
 してはるかに
 ながるる
 水は
 せせり
 流るる
 草花は
 いろいろ
 咲いて
 いる
 春の
 気配が
 する
 かな

あつちのうらやまの
 山に雲がたもたもた
 してはるかに
 ながるる
 水は
 せせり
 流るる
 草花は
 いろいろ
 咲いて
 いる
 春の
 気配が
 する
 かな



あつちのうらやまの
 山に雲がたもたもた
 してはるかに
 ながるる
 水は
 せせり
 流るる
 草花は
 いろいろ
 咲いて
 いる
 春の
 気配が
 する
 かな

あつちのうらやまの
 山に雲がたもたもた
 してはるかに
 ながるる
 水は
 せせり
 流るる
 草花は
 いろいろ
 咲いて
 いる
 春の
 気配が
 する
 かな

あつちのうらやまの
 山に雲がたもたもた
 してはるかに
 ながるる
 水は
 せせり
 流るる
 草花は
 いろいろ
 咲いて
 いる
 春の
 気配が
 する
 かな



寺代

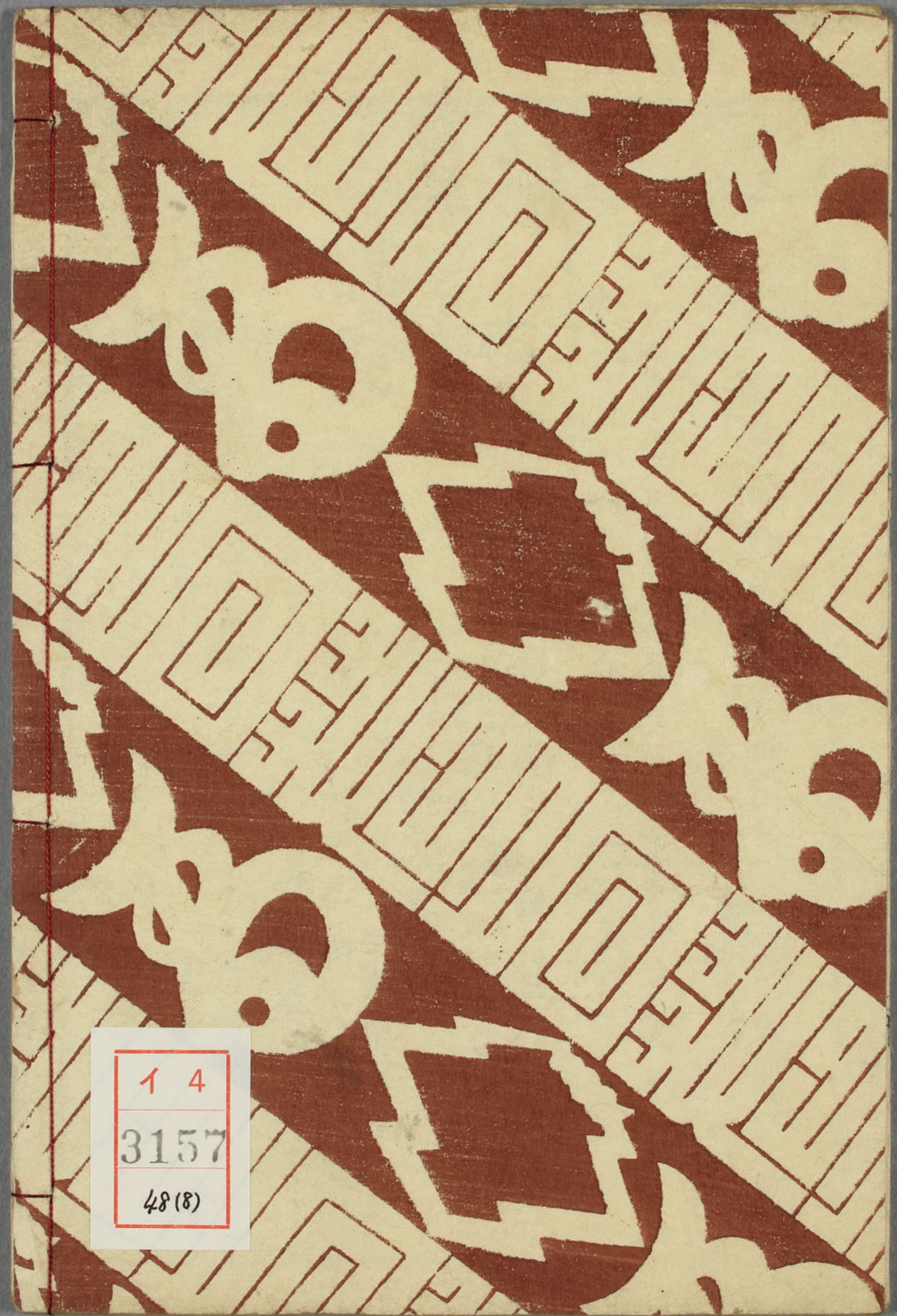
十一



世の巻

十五





イ 4
3157
48(8)